



ADRC Highlights

Asian Disaster Reduction Center Monthly News

Vol. 259
October
2014

トピックス

国際会議への参加

「中央アジア+日本」対話の枠内における第2回中央アジア地域防災閣僚会合

宇宙技術とGIS情報によるアジア太平洋地域における減災及び災害管理のための能力開発と政策担当者会議

ADRC客員研究員 レポート

ハザール・ファディル・アブドゥルジャバル・ダンマ (イエメン)

ヌワン・プラサンタ・マダワン・アラチ (スリランカ)

インターンレポート

西澤 美里さん
ギョーム・ベルナルドさん

Asian Disaster Reduction Center アジア防災センター

〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通
1-5-2 東館5F

Tel: 078-262-5540
Fax: 078-262-5546
editor@adrc.asia
http://www.adrc.asia

© ADRC 2014

●国際会議への参加

「中央アジア+日本」対話の枠内における第2回中央アジア地域防災閣僚会合

アジア防災センター(ADRC)は、2014年9月18-19日にキルギス共和国の首都ビシュケクで開催された

「『中央アジア+日本』対話の枠内における第2回中央アジア地域防災閣僚会合」に参加しました。本会合は、日本政府、キルギス共和国非常事態省、UNDPの主催で、「中央アジア+日本」の枠内における防災に関するハイレベルの協議の場の創設を目指し開催されました。

本会合には、カザフスタン、キルギス共和国、タジキスタン、トルクメニスタン、ウズベキスタンからの代表の他に、在キルギス共和国日本大使館、JICA、国際機関の関係者が参加しました。

会議では、中央アジア地域における喫緊の防災課題や、更なる防災協力について議論が活発に行われました。ADRCからは、中央アジア地域で実施した防災プログラムの成果や、そこから特定された中央アジア地域におけるニーズと今後の防災協力について紹介しました。

会議の最終日には、成果文書が発表されました。その中では、非常事態への災害リスク軽減、予防、対応における地域協力の強化を協議するための、中央アジア諸国の防災機関長によるフォーラムの創設及び定期的な開催について合意されました。さらに、上記フォーラムを支援するために、専門家レベルでの作業部会の設置についても合わせて確認されました。当センターは引き続き中央アジアにおけるイニシアティブを支援していくとともに、更なる地域防災協力を推進したいと思います。



UNESCAP/JAXA 宇宙技術とGIS情報によるアジア太平洋地域における減災及び災害管理のための能力開発と政策担当者会議

ADRCは、2014年9月23日から25日までタイ、バンコクで開催されたUNESCAPとJAXA共催による標記の会議に出席しました。会議には、アジア及び太平洋諸国の防災担当部門、国際機関や防災機関、大学やその他民間企業から約80名が参加しました。この会議の主な内容は以下の通りです。

- ・自然災害のリスク低減について
- ・災害時の人道的及び地域への支援について
- ・減災と災害管理への宇宙技術とGISの貢献について



続き

- ・災害時の情報管理のための宇宙技術とGISの利用について
- ・経済活動の復旧のための宇宙情報とGIS技術の利用
- ・災害警報と避難行動に対しての宇宙技術とGISとの統合
- ・地域的な協働を結びつけるための宇宙技術とGIS技術の利用

ADRCは2日目のグループCで、センチネルアジアの仕組みの中でのADRCの活動内容の紹介と、兵庫行動枠組みの中での衛星利活用について発表しました。

●ADRC客員研究員レポート

ハザール・ファディル・アブドゥルジャバル・ダンマ（イエメン）

はじめまして、私はイエメンから来ましたハザールと申します。私は2007年にイエメンのサナ大学を卒業し、2008年から水資源省に入省しました。現在は、同省で水資源政策課長として働いています。水資源省は、水資源管理の基礎的な方法論を用いて、水資源開発の分野に貢献することを目的としています。具体的には、衛生的な飲料水の提供、下水道設備の管理、砂漠化や汚染から水資源を保護すること、天然資源の確保、関連法律の適用および事業の実施し、地方・NGO・女性・プライベートセクターなど関係者をこれら活動へ積極的に参加させることなどを目的として活動をしています。活動を通じて、継続的な水資源の開発、公共福祉サービスの改定、貧困の軽減などを提供できると考えています。



最近の活動経歴としては、2008年にスペインで開催された国際エキスポサラゴサで、水資源省の代表団として働いた経験があります。また、2010年8月においては、落石・地滑りに関する災害リスク管理に係るトレーニングワークショップに参加しました。2012年12月においては、エジプトのカイロに於いて開催された、TSWRI(Training Sector for Water Resources and Irrigation)という水資源と灌漑に関するトレーニングコースに参加しました。

私は今年の8月からADRCの客員研究員として参加しました。この機会におきましては、私の国での得た経験をみなさんと共有し、日本および他の客員研究員の国の防災に関する知識を学びたいと思います。今回学ぶことができる経験は、自国に戻った際に、災害による被害軽減等に必ず役に立つと思います。また、先ほども述べた通り、私の国のイエメンにおいては水資源に関して現状たくさんの課題を持っています。滞在期間中は、関連するデータベースの構築や住民意識の向上など、どのようにすれば水資源管理の強化できるかを考えてみたいとも思います。

ヌワン・プラサンタ・マダワン・アラチチ（スリランカ）

はじめまして、私はスリランカから来ましたヌワンと申します。ADRCには今年の8月から客員研究員として着任しています。スリランカにおいては、私は防災人権省防災センターにおいて災害予防担当課長補佐として働いています。防災人権省は、国家災害管理委員会によって任命された公的機関で、防災に係る様々な活動を計画および実行し、大統領が議長をつとめています。防災人権省は、より安全なスリランカを目指して、各種防災活動を推進しています。同省においては、私は国から地方のレベルにかけて、防災に係る施策や計画を実施し、運営することを主な業務としています。近年におきましては、気候変動、地球温暖化の分野において



続き

も関心があり、環境に関する活動も行っています。経歴としましては、まず初めにルフナ大学で農業を学び、ペラデニヤ大学で防災に関する修士号を取得しました。ワシントンにおけるアレキサンドリアキャンパスにおいて、奨学金を得て学べたことは人生で最も貴重な経験となりました。さらに、米国においても職業及び技術教育システムについて学んだ経験があります。あわせて、環境や防災に関連する幾つかの刊行物を出版した経験もあります。

これから先、私は様々な災害に対して弱い立場にある人々を支援できるような、防災の専門家になりたいと思います。

●インターンレポート

ADRC インターンシップ (西澤美里さん)

初めまして。2014年9月3日から9日までADRCにインターンシップに来ました関西大学社会安全学部3回生の西澤美里と申します。私の通う社会安全学部とは全国唯一の学部です。安全というキーワードのもと、政治学、法学、心理学、工学などの様々な分野からアプローチをしていき鳥瞰的視座を身につけます。比較的新しい学問ではありますが、近い将来、南海トラフ沖大地震や首都直下型地震のような国難レベルの災害が起こると予想されているこの日本には必要不可欠な学問であると考えています。

さて、今回のインターンシップではADRCの業務を体験させていただきただけではなく、兵庫県立広域防災センターをはじめとする様々な施設を訪問させていただきました。また、VRの方々や私と同様フランスからインターンシップに来ている方とたくさん交流することもできました。ADRCの皆さまのおかげで日本に居ながら異文化に触れ合えたり、海外の災害に関して知ることや考えたりすることができ、本当に充実したインターンシップを過ごすことができました。5日間という短い期間でしたが、多くのことを吸収し、将来社会に貢献できるよう精一杯努力したいと思います。



ADRC インターンシップ (ギョーム・ベルナルドさん)

私の名前はギョーム・ベルナルドといいます。フランス人です。8月18日から9月12日までインターンとしてADRCで働かせていただきました。ADRCでは、母国のカントリーレポートとプロファイルを作成する業務に従事しました。また、ADRCでは、仕事だけではなく、外国人客員研究員と同じ研修に参加させてもらったり、東日本大震災の爪痕と復興過程を自分自身の目でみるため、宮城県に研修旅行に行く機会も得ました。これらの有意義な体験を通じて、私は災害というものが国際協力の進展にとって大きなきっかけになるのではないかと強く感じました。なぜならば私たちは同じような危険やリスクを分かち合うときに、より協力しあえたり、政治的・文化的な対立を忘れることができると思うからです。例えば、福島における原発事故に対して適切な対応をするために、フランスの原子力技術や原子力問題に関する経験から、日本は多くのことを学ぶことができるでしょうし、アジアの洪水対策に関する経験から、EUの国々は多くのことを学ぶことができるでしょう。また、気仙沼などの被災地で続けられている土地の嵩上げ工事や防波堤工事などの復興事業を見たとき、それらが必ずしも人々を守る手段としては最善策ではないように思いました。私のようなヨーロッパ人からする



続き

と、土地を嵩上げしたり、高い防波堤をつくることは、自然との実を結ばない戦いのように見えてしまいます。ヨーロッパでは、自然の力には逆らえないから、もっと安全なところに引っ越して生活しようとする人が多いのではないかと思います。あいにく、日本では人口密度が高いため、そう簡単に引っ越しできないということも事実ですが…。いずれにせよ、参加したADRCのインターシッププログラムによって、私は本当にすばらしい経験を得ることができました。

問い合わせ・配信申し込み

このニュースレターに対するお問い合わせ、またEメールによる配信をご希望の方は editor@adrc.asia までEメールをお寄せください。